

秋田県現代俳句協会会報

No.97

令和8年3月7日
印刷 (株)八郎湯印刷

発行者 秋田県現代俳句協会

会長 森 田 千枝子

事務局

〒〇一九一〇七一五
横手市増田町八木一二三

片倉 弓

TEL 〇一八二一四五一二三三三

令和七年度 第三十一回

秋田県現代俳句協会



作家賞



手の届くところ

横手市 片倉 弓

採血は利手でなきはう稲架掛くる

表情筋とろけてしまふ天高し

おにやんまひよつとして彼は孤独かも

人魂に似たるほほづきからつから

真菰の花もつたいぶつた話する

秋繭やふくらはぎのやはらかさ

落花生炒る熊の箱檻がつしやんと

新走牛の涎の透き通る

ラーメン屋のタッチパネル片時雨

日差しほのとモップの先に集む冬

二人来て君は雪だけ見つめてる

言の葉のはがれやすさや紙を漉く

樹氷林その他の中に居る私

きりたんぽ鍋しつくりはまる里訛

手の届く場所にある人冬すみれ

通り道

片倉 弓

冬の雨があがった後、ゆつくり歩いていたら妙に視界が開けたように感じた。空き家が更地になったり、雑木林や庭木が伐採され遠くまで見通せるようになったからか。

そんな景色を眺めながら増田首都圏会の事を思い出した。創立四十周年と言う事で増田盆おどり保存会に出演依頼があり、披露してきた。八月十五日の盆踊会だけしか踊らないとしてきた私だが、東京へのメンバーが揃わず、お鉢がまわってきた。懐かしさに涙

する参加者と踊りながら、ふっと思い出の増田町と現実の増田町の違いをどう考えているのだろうか。変わってゆく事への寂しさ、嬉しさだろうか。私に出来る事はあるのだろうかなどと考えた事を思い出した。

私がステージで踊らないのは、八月十五日の盆踊会だけは幼い時から受け継いだ踊りができるからである。

こんな一途さが私の俳句にはあるかも知れない。何気ない日常を詠みつつ、この里で生きている豊さを伝えられたらなどと、大きな事を思っている。

力不足のたどたどしい作品に、風の通り道を作った下さった選考委員の皆様にご感謝申し上げます。

作家賞選考経過

選考委員長 三浦 静佳

第三十一回秋田県現代俳句協会作家賞の選考委員会が十二月十九日、秋田市協働大町ビルにて開かれた。森田千枝子、加藤昭子、片倉俊秀、船越みよ、三浦静佳の五名全員が出席した。(敬称省略)

応募作品は、昨年より三編少ない七編だった。選考に先立って作品は、作家賞担当の三浦から、ワープロにて無記名の公平なかたちに清記して各委員に届けてあったので、充分な検討をしての開会となったと思っっている。

まず、七編を一編ずつ、全体的な感想、題名のテーマ性、誤字の確認、特に良かった句、そうでなかった句を、委員一人ずつ丁寧に発言していった。全員の見解が出揃ったところで、今回は、作家賞一編、準作家賞一編、入選一編を協議の上決め、一位から五位まで順位をそれぞれに発表してもらった。

合計点から、「手の届くところ」が作家賞に(一位が三名)、「気配」が準作家賞に(一位が一名)、「昭和(平和)令和」が入選に決まった。

今回は、戦後八十年の戦争をテーマにした作品が二編と、題名が十五句全体に入った作品が二編、日常詠が三編と、三とおりに分かれていた。戦争テーマの作品については、思い入れが先に立つからか読み手に伝わりにくい句が多く残念だった。また、全句に題名を入れた作品について、報告や説明に傾いている、との指摘があった。単調に流れてしまうのかも知れない。それでも、十五句を揃えるには大変なエネルギーが要る(経験者です)。

次回のより多くの応募を切に願っている。

準作家賞

気配

三種町 向田 久美子

村芝居宙返りする豆絞り
子の疎開ありしこの寺鳥渡る
猫のいた気配濃くして夜寒かな
枯はちす果托に空の落ちている
どっしりと公園の汽車神の旅
荒縄のこするとつくり大根です
面倒に首を突つ込む小六月
太陽は海を抱きしめ寒夕焼
姿見の正直すぎる冬至風呂
樟の洞を覗くや十二月
仮眠中車の窓に積もる雪
峡の村雪の中から一輛車
ソロバンを何度も払う年の市
蔵開き鎮座している古こけし
木枯や言葉を通す針の穴

入選

昭和(平和)令和

秋田市 鈴木 修 一

門柱になめくじ昭和の濡れ具合
軍功の昔語りの炉火ありき
LPの軍歌に酔うて父の春
泡立てる片恋の海ソーダ水
被爆せしブラウスが呼ぶ少女の名
広島忌己のすがた人に見て
長崎忌鳩を放ちて眩む空
艦載機伏す白服は姉ならん
耳に挿すハイビスカスとねむる妻
秋暑き河岸続続不発弾
終戦日カートを拒む児のちから
秋天へ生きんとせめぐ鯉の貌
雨粒の身に伝い鳴くこおろぎか
昇る陽のごと子を掲げダリア園
ふり向けば妻コスモスと吹かれおり

令和七年度

作家賞応募作品(到着順)

作品より一人一句抄出

- ① 「昭和(平和) 令和」
門柱になめくじ昭和の濡れ具合
- ② 「木枯」
食堂で新蕎麦たぐる男かな
- ③ 「蔵」
婚礼の整ふ春の蔵座敷
- ④ 「残響」
不意に蛇口の水どとと開戦日
- ⑤ 「手の届くところ」
採血は利手でなきはう稲架掛くる
- ⑥ 「西馬音内盆踊」
踊終え余韻の残る棧敷解く
- ⑦ 「気配」
村芝居宙返りする豆絞り

今年度は七名の方にご応募いただきました。皆様の俳句への熱意と努力に、心から敬意を表し感謝申し上げます。どの作品にも物語が広がり、読み手にも喜びや新しい発見がありました。次回のご応募もお待ちしております。

◆選考余滴

選考委員 森 田 千枝子

作家賞は「手の届くところ」に決まった。一昨年に続き二度目の受賞である。《採血は利手でなきはう稲架掛くる》《人魂に似たるほほづきからつから》《秋蘭やふくらはぎのやはらかさ》《樹氷林その他の中に居る私》など、いずれの句も豊かな詩情をもって日常を編み上げ、的確な描写で対象を捉えている。読後に残るゆつたりとした余韻が魅力の作風である。

準作家賞は「気配」。《枯はちす果托に空の落ちている》《樟の洞を覗くや十二月》《木枯や言葉を通す針の穴》など独自の感覚が冴える句が目を引き。一方で、「姿見―」や「仮眠中―」といった句は、もう一步踏み込んだ内面を期待しなくなるところで、その点が惜しまれた。

入選は「昭和（平和）令和」。《門柱になめくじ昭和の濡れ具合》《軍功の昔語りの炉火ありき》など、作者の意図が直撃する句が並び、昭和という時代の質感がよく表れている。

中盤、被爆、広島忌、長崎忌、艦載機、といった重い言葉が並び、やや負荷がかかり過ぎた印象も受けた。

惜しくも入賞を逃した作品から好きな句を挙げる。

「残響」《不意に蛇口の水道と開戦日》《望郷や又たんぼの絮を吹く》「蔵」《柿すだれ蔵の白壁甘くせり》《蔵の窓団欒のぞく氷柱の眼》木枯《兜太忌や秩父の鯉か八郎湖》木枯や少子化乗せてゆく列車《西馬音内盆踊》《笛の音の澄み届きぬ踊の夜》《ゆつたりと男踊の足捌き》

◆選考寸感

選考委員 加 藤 昭 子

今年度の、作家賞応募数は七編。年々減少傾向にあり寂しさを感じる反面、意欲的な作品に触れられる事は喜ばしい。それぞれの十五句を入念に読み選考に臨んだ。

○作家賞「手の届くところ」

さりげない日常を掬い取る作者の柔らかな視線、感性に惹かれた。季語との取り合わせ、その中に見る作者の日常が、柔軟な言葉で表現され好感。

人魂に似たるほほづきからつから―イメージの特異性

手の届く場所にある人冬すみれ―家族への思い

○準作家賞「気配」

全体的に安心して読める作品群。その反面、言い尽くされた情景が多いかと思われた。

面倒に首を突つ込む小六月―季語と作者の性格の明るさ

木枯や言葉を通す針の穴―針仕事の中での独り言か

○入選「昭和（平和）令和」

作品の並べ方に工夫が見られ、平和な日常の明るさが良い。門柱になめくじ昭和の濡れ具合―取り合わせからの衝撃

○その他の応募作品から一句ずつ引く。

木枯や少子化乗せてゆく列車

婚礼の整ふ春の蔵座敷

聞きとれぬ防災無線八月来

踊終え余韻の残る棧敷解く

✦選考寸感

選考委員 片倉俊秀

○作家賞「手の届くところ」

- ・採血は利手でなきはう稲架掛くる
- ・日差しほのとモップの先に集む冬
- ・きりたんぼ鍋しつくりはまる里訛

日常生活の中の題材の新鮮さ。現代と伝統的風景の融合。二句目、日常に冬の光の存在をとらえる。三句目、鍋と方言の温みの響き合い。取り合わせが新鮮でオリジナルな句群。

○準作家賞「気配」

- ・猫のいた気配濃くして夜寒かな
- ・木枯や言葉を通す針の穴

情景描写と心情表現の融合。気配を濃く感じさせることで寒さを際立たせている。二句目、比喩的表現が秀逸。

○入選「昭和（平和）令和」

- ・門柱になめくじ昭和の濡れ具合
- ・終戦日カートを拒む兎のちから

主題のイメージ化が巧み。昭和という時代性の表出。二句目、「兎のちから」が平和への願いを表現。共鳴句が多い。

○その他共感した句

- ・青空を吸って膨らむ辛夷かな
- ・蔵の窓団欒のぞく氷柱の眼
- ・春を待つ鶴を山折り谷折りに
- ・顔見せぬ踊の笠を深くして

✦個性の輝き

選考委員 船越みよ

○作家賞「手の届くところ」

- ・人魂に似たるほほづきからつから
- ・秋蘭やふくらはぎのやはらかさ
- ・落花生炒る熊の箱檻がしやんと

ほっこりさせられる日常の身辺詠。生活感があり、季語の配合が一句をゆるぎないものになっている。

○準作家賞「気配」

- ・枯はちす果托に空の落ちている
- ・どっしりと公園の汽車神の旅
- ・木枯や言葉を通す針の穴

対象にしっかりと向きあい、どっしりとした安定感がある。木枯の冷たさと言葉を必死に吟味する緊張感の配合が見事。

○入選「昭和（平和）令和」

- ・秋天へ生きんとせめぐ鯉の貌
- ・昇る陽のごと子を掲げダリア園

戦後の昭和、戦争の爪痕、令和の日常の構成に工夫あり。一句目は実景だが、食糧に群がるガザの人々をも連想させる。

○その他共感した句

- ・青空を吸って膨らむ辛夷かな
- ・蔵座敷組子障子に雪の声
- ・望郷や又たんぼの架を吹く
- ・地口冴え笑いを誘う盆踊

✦ 選考寸感

選考委員 三 浦 静 佳

○作家賞「手の届くところ」

- ・ 秋爾やふくらはぎのやはらかさ
- ・ 樹氷林その他の中に居る私

二度目の作家賞受賞。

日常、生活感を作者独自の作風にて仕上げた。真菰の花・秋爾・紙漉などの季語を効かせた作品が目立った。

○準作家賞「気配」

- ・ どっしりと公園の汽車神の旅
- ・ 樟の洞を覗くや十二月

作家賞初挑戦初入賞。

感覚を生かした句や季語との配合が効いた句が目立っていた。特に二句目は一年の終わりの何も無い事の確認か。

○入選「昭和（平和）令和」

- ・ LPの軍歌に酔うて父の春
- ・ 昇る陽のごと子を掲げダリア園
- ・ 父や妻子を通して戦争、そして不戦を表現した。題名にや戸惑いを感じたが。戦後八十年への思い。

○入賞に至らなかった共鳴句

- ・ 木枯や少子化乗せてゆく列車
- ・ 柿すだれ蔵の白壁甘くせり
- ・ 聞きとれぬ防災無線八月来
- ・ 踊終え余韻の残る棧敷解く

令和七年度 定例総会・俳句大会・懇親会

三月八日、総会は、物故者への黙祷から始まり、作家賞表彰を行った後、六年度の事業報告、決算報告並びに七年度の事業計画・予算が承認された。

午後からは第四十回現代俳句秋田県大会を開催。大会には五十九名の方々から二百八句の応募が寄せられた。大会では加藤昭子副会長が「台歓」とその俳人たちと題して講演を行い、次いで特定選者評、成績発表、表彰と続き、最後は情報交換を兼ねた賑やかな懇親会で大会を締め括った。

○特定選者選

加藤昭子 特選

- ・ 親方と少し離るる三尺寝
 - ・ 深雪晴寛解の子に花を選る
 - ・ 眼も耳も敏く勤労感謝の日
- 工藤 進
片倉 弓
須田亜希子

佐藤君子 特選

- ・ マフラーの長きに巻かれ生き上手
 - ・ 着脹れの母の口癖「まっいいか」
 - ・ 古日記曲がり損ねた角がある
- 三浦 静佳
加藤 昭子
加藤 昭子

岸部吟遊 特選

- ・ 字の儘消えてゆく村稲架の骨
 - ・ 十二月八日ペラッペラな客座布団
 - ・ レノン忌や銃後の父の無言なり
- 小林万年青
森田千枝子
後藤 平次

○現代俳句協会長賞

・古日記曲がり損ねた角がある

加藤 昭子

○秋田県現代俳句協会長賞

・利き耳の方に寄り添ふ冬みうらら

今野サト子

○秋田県芸術文化協会長賞

・ひとりずつ小春を抱いても忘れ

森田千枝子

○秋田県俳句懇話会長賞

・撥の音は雪崩の震え津軽三味

小林万年青

令和七年度 俳句を語る会(写俳)

六月十四日、今年初めて写真と俳句のコラボレーション「写俳」を開催した。担当の加藤昭子副会長の案内に従い、入り口に置かれた大判の二枚の写真「西瓜」「田植」をじっくり鑑賞し、それぞれが二句の投句。終始、賑やかな合評となった。

○高点句賞

「西瓜」

・山盛りの西瓜の皮や子の歯型
・負け組も食べ放題の西瓜かな

加藤 昭子
片倉 俊秀

「田植」

・泥足を抜く六月のてっぺんへ
・あっぱれな令和の田植ダンスかな

森田千枝子
船越 みよ

○参加者一人一句

・すいか食むまんまるまるな女の子
・西瓜甘しデンと腰据えひとりじめ
・泥んこもさまになる子の田植かな
・西瓜食むきつちり曲げた股関節
・相づちを打つ間もなくてまず西瓜
・田の四隅腰痛の友補植する
・立ったきり足が抜けない田植えかな
・早乙女も様変わりして短パンに

堅阿彌放心
木村和影女
浅野 法子
田村 陽子
片倉 弓
首藤 圭
さとうとしお
泉屋おさむ



第三十九回

現代俳句東北大会

(秋田)

東北地区現代俳句協会連合会主催の第三十九回現代俳句東北大会は、九月二十七日、秋田市・協働大町ビルで開催され参加者四十五名、応募句は百七十四名から六百三十九句が寄せられた。

午前は連合会の役員会で次年度の協議、午後は、現代俳句



協会副会長の対馬康子先生の講演、「俳句はつながり」を拝聴し、各県代表による選評、成績発表、当日の席題表彰が行われ、懇親会も開かれた。終始和やかな大会となった。

◎大会講師 対馬康子先生選

入選

梅雨に逝く修正液が出てこない
枇杷食ふて私の機嫌は我がとる

三種町 三浦 静佳
秋田市 小野寺さくや

ふっと死を月夜の螺旋すべり台
なつかしきものに箸行く夏の朝

能代市 船越 みよ
秋田市 佐々木洋子

鳥海は空の紋章五月晴

井川町 森田千枝子

サンダルの誰かの自由運びゆく

湯沢市 阿部 晴子

柳絮飛ぶ根こそぎに飢え凌ぎし野

秋田市 鈴木 修一

▽東北地区現代俳句協会連合会会長賞

黙祷を捨う補聴器蝉しぐれ

秋田市 小林万年青

▽秋田県現代俳句協会会長賞

活けられて風を忘れし花芒

能代市 戸田佐江子

▽岩手県現代俳句協会会長賞

八月がくるから昭和蘇る

北秋田市 五代儀幹雄

▽福島県現代俳句協会会長賞

蓬餅百まで生きる顔ばかり

井川町 森田千枝子

▽山形県現代俳句協会会長賞

万緑にまみれて水になりさうな

横手市 鈴木 貞子

▽秀逸賞

梅雨に逝く修正液が出てこない

三種町 三浦 静佳

過疎という新玉葱のころがる地

五城目町 石井小嵐峰

早蕨を折つて真水の匂ひかな

にかほ市 須田亜希子

▽佳作賞

無声映画始まる蛇が衣を脱ぐ

井川町 森田千枝子

なんとなく春臨月は来月です

能代市 佐藤 充重

ひまはりの前へ前へと朽ちてゆく

横手市 片倉 弓

▽永井江美子特選・川村草央特選

横手市 佐藤二千六

サンダルの誰かの自由運びゆく

湯沢市 阿部 晴子

梅を干すほどよき村の傾斜なり

横手市 佐藤二千六

早蕨を折つて真水の匂ひかな

にかほ市 須田亜希子

▽星野高士特選

大仙市 加藤 昭子

新盆やたぶん父ならカブで来る

にかほ市 須田亜希子

まくなぎや完璧なんてつまらない

大仙市 加藤 昭子

▽当日席題「酒」大会講師対馬康子選

哀しみの余白をもらうぬくめ酒

横手市 片倉 俊秀

晩年へ傾いてゆく干大根

秋田市 小林万年青

雁渡るいつしか酒の旨き我

三種町 三浦 静佳

戦の地ゼリーの中に閉じ込める

三種町 向田久美子

祭瘤の肩に酒吹き担ぎ上ぐ

能代市 岸部 吟遊

過疎という新玉葱のころがる地

五城目町 石井小嵐峰

むかし歩めばゴツンと酒屋ゴツホの死

秋田市 小林万年青

▽大瀬響史特選・佐川盟子特選

梅雨に逝く修正液が出てこない

三種町 三浦 静佳

豊の秋酒の秋田の人となる

羽後町 藤原貢太郎

▽大瀬響史特選・五日市明子特選・森田千枝子特選

三種町 三浦 静佳

▽選者特選句

▽高野ムツオ特選・春日石彦特選

ひまはりの前へ前へと朽ちてゆく

横手市 片倉 弓

八月がぐるから昭和蘇る

北秋田市 五代儀幹雄

▽高野ムツオ特選・小田島渚特選

新ジャガを粗く潰して土着して

井川町 森田千枝子

▽松宮梗子特選

能代市 戸田佐江子

▽小林貴子特選

新緑の撓々として最上川

由利本荘市 菅原ミヤ子

活けられて風を忘れし花芒

能代市 戸田佐江子

▽永井江美子特選・佐川盟子特選

黙禱を捨う補聴器蝉しぐれ

秋田市 小林万年青

▽成田唯央特選・船越みよ特選

秋田市 小林万年青

▽名久井清流特選

黙禱を捨う補聴器蝉しぐれ

秋田市 小林万年青

黙禱を捨う補聴器蝉しぐれ

秋田市 小林万年青

▽永井江美子特選・佐川盟子特選

黙禱を捨う補聴器蝉しぐれ

秋田市 小林万年青

黙禱を捨う補聴器蝉しぐれ

秋田市 小林万年青

鯛や田を見れば父まだ居りぬ

能代市 塚本 佐市

▽安部克詠特選・須藤結特選・加藤昭子特選

▽大河原真青特選

横手市 片倉 弓

新盆やたぶん父ならカブで来る

にかほ市 須田亜希子

▽四戸美佐子特選・及川真梨子特選・須藤結特選

▽池田義弘特選

横手市 木村和影女

万緑にまみれて水になりさうな

横手市 鈴木 貞子

▽四戸美佐子特選・春日石彦特選

▽藤巻 琉特選

八郎潟町 帆船 類

百畳の真ん中に佇つ涼しさよ

大仙市 加藤 昭子

▽五日市明子特選

夏炉焚く祖霊の宿る蔵座敷

秋田市 和田 仁

かき氷二人で崩す余生かな

大潟村 浅野 法子

▽渡辺誠一郎特選・鈴木三山特選

地上絵の青の航跡導摘む

三種町 向田久美子

陽の匂ひ母の匂ひの日傘かな

にかほ市 齋藤みどり

▽成田一子特選・森田千枝子特選

▽藤巻 琉特選・片倉 弓特選

井川町 森田千枝子

青にんにく透明だった少年期

横手市 片倉 俊秀

▽成田一子特選

▽大類つとむ特選

北秋田市 五代儀幹雄

輝くという宿命のさくらんぼ

能代市 船越 みよ

▽坂下遊馬特選・大類つとむ特選

▽佐竹伸一特選

横手市 鈴木 貞子

無声映画始まる蛇が衣を脱ぐ

井川町 森田千枝子

▽鈴木三山特選

▽畠山カツ子特選

美郷町 戸澤 陽子

蝉啼かせ来る少年の生々し

秋田市 小林万年青

▽小田島渚特選

▽松浦廣江特選

美郷町 戸澤 陽子

パセリ噛む誰も主役を欲しがらず

井川町 森田千枝子

箱膳を囲む古里昭和の日

湯沢市 阿部 晴子

▽加藤昭子特選

余生にも賞味期限やかき氷

▽船越みよ特選

語り部は辺境の地の兜虫

井川町 森田千枝子

八郎潟町 館岡 誠二



第六十二回

現代俳句全国大会

(於・東京)

令和七年十一月三日、上野(東天紅)で「第六十二回現代俳句全国大会」が開催されました。

秋田県関係の入賞作品は次の通りです。

▽毎日新聞社賞

羅の姉が身ごもりそうな海

秋田市 小林万年青

▽朝日新聞社賞

瓦礫でもそこは故郷クリスマス

大潟村 田村 陽子

▽特別選者特選句

秋尾敏特選

羅の姉が身ごもりそうな海

秋田市 小林万年青

鈴木正治特選

瓦礫でもそこは故郷クリスマス

大潟村 田村 陽子

星野高士特選

減反が捨て田となるや春の雷

秋田市 種村聖巴子

前川弘明特選

卒業や四次元の扉を開け放つ

大潟村 田村 陽子

▽佳作入賞

卒業や四次元の扉を開け放つ

大潟村 田村 陽子

▽一般選者特選句

五十嵐秀彦特選

十二月八日煮つまり過ぎたジャム

横手市 片倉 弓

井口時男特選・今岡直孝特選・佐藤日和太特選

羅の姉が身ごもりそうな海

秋田市 小林万年青

石 寒太特選

みほとけも神も花野におはします

横手市 阿部清流子

伊東類特選・今岡直孝特選・小山貴子特選・千葉芳醇特選

日常がくるりと剥けし茹で玉子

秋田市 小林万年青

恩田侑布子特選

卒業や四次元の扉を開け放つ

大潟村 田村 陽子

中井洋子特選

存える秘訣は雪に泣くことも

北秋田市 五代儀幹雄

山元志津香特選

瓦礫でもそこは故郷クリスマス

大潟村 田村 陽子

中内亮玄特選

魚板鳴る梅一輪の走り咲き

横手市 阿部清流子

名久井清流特選

少子化の村蔵ぜんまいたんとある

能代市 船越 みよ

播磨穹鷹特選・山本敏倅特選

炎昼やもう溶け出してゐる日本

にかほ市 金 道博

水野星闇特選

終戦日正義硬貨の裏表

湯沢市 阿部 晴子

編集後記



会報九十七号をお届けします。

今号では限られた紙面の中で事業や大会の様子をできるだけ多くお伝えできるよう、写真も交えて構成しました。

全国大会では、特に小林万年青さん、田村陽子さんのお二人が大いに活躍され、秋田現俳としても大変に誇らしい気持ちになりました。

最大のイベントである

東北大会では多くの入賞者が誕生し、当番県として胸を張れる結果となりました。何よりも、「参加して楽しかった」という声を多くいただいたことが最大の成果だったと感じております。

また、東北大会の財源不足を補うため、この一年間、役員の方々には旅費を返上してご協力いただきました。そのご厚意に、ただただ頭の下がる思いです。改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

(千枝子)